

# 令和5年度

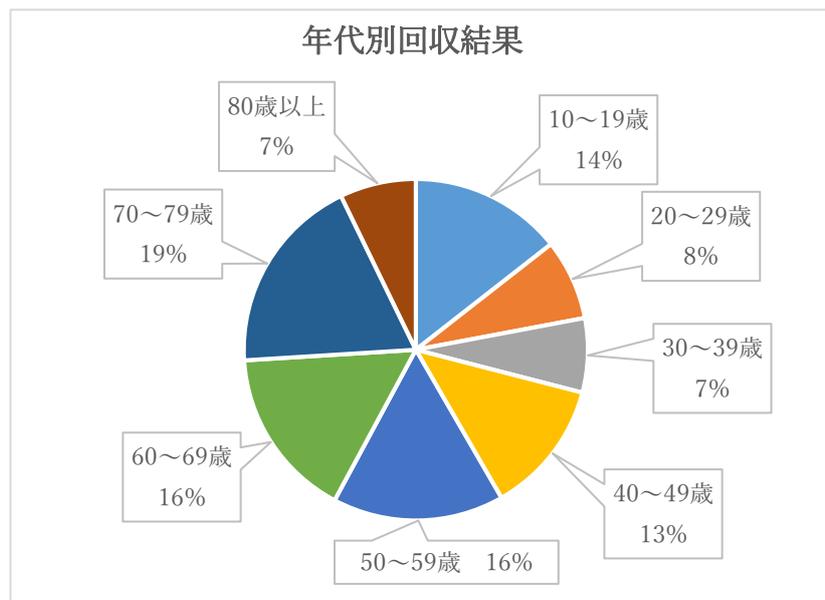
## 藤枝市認知症に関する意識調査報告書

地域包括ケア推進課

### ◆ 調査概要 ◆

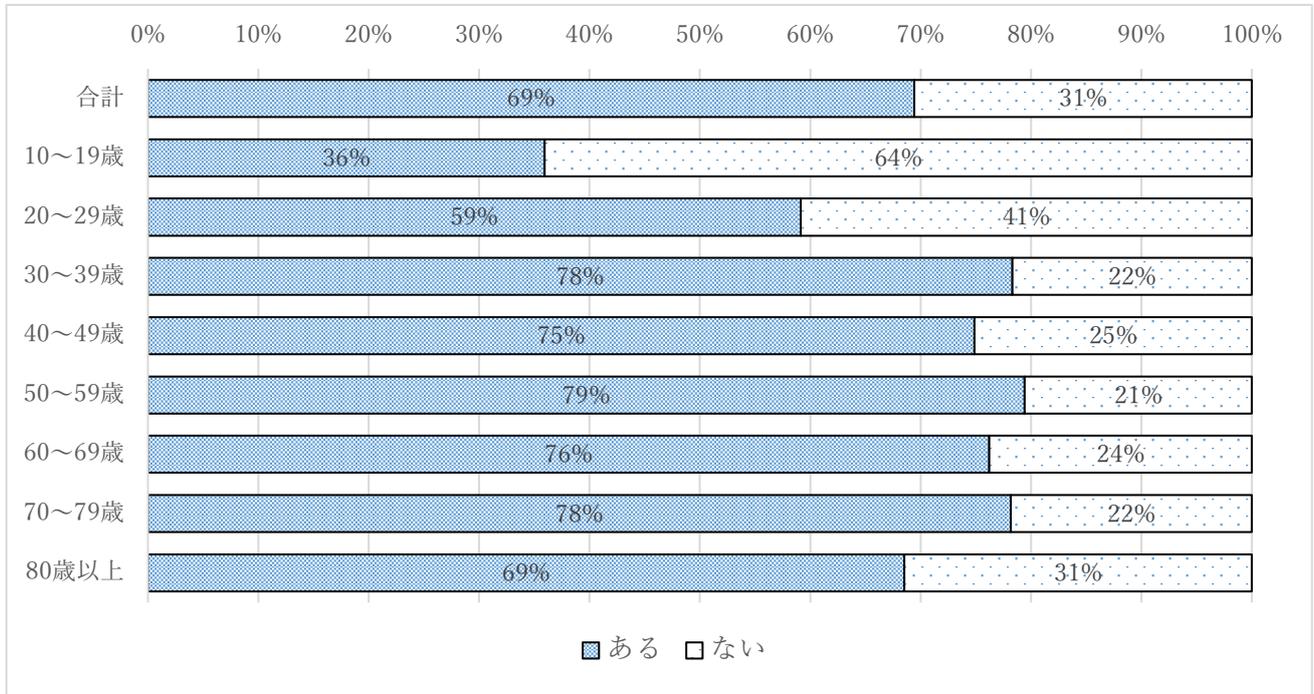
- ・ **調査目的**  
認知症に関する理解やイメージについて把握し、今後の認知症施策等の参考にするため。
- ・ **調査対象**  
藤枝市内に居住、在学、在勤する者
- ・ **調査方法**  
自記式及びオンラインでの回答
- ・ **調査期間**  
令和5年11月7日（火）～11月30日（木）
- ・ **回答者数**  
1,508名

年齢	回収数
10～19歳	217
20～29歳	115
30～39歳	106
40～49歳	191
50～59歳	243
60～69歳	244
70～79歳	284
80歳以上	108
<b>合計</b>	<b>1508</b>



## ◆ 調査結果 ◆

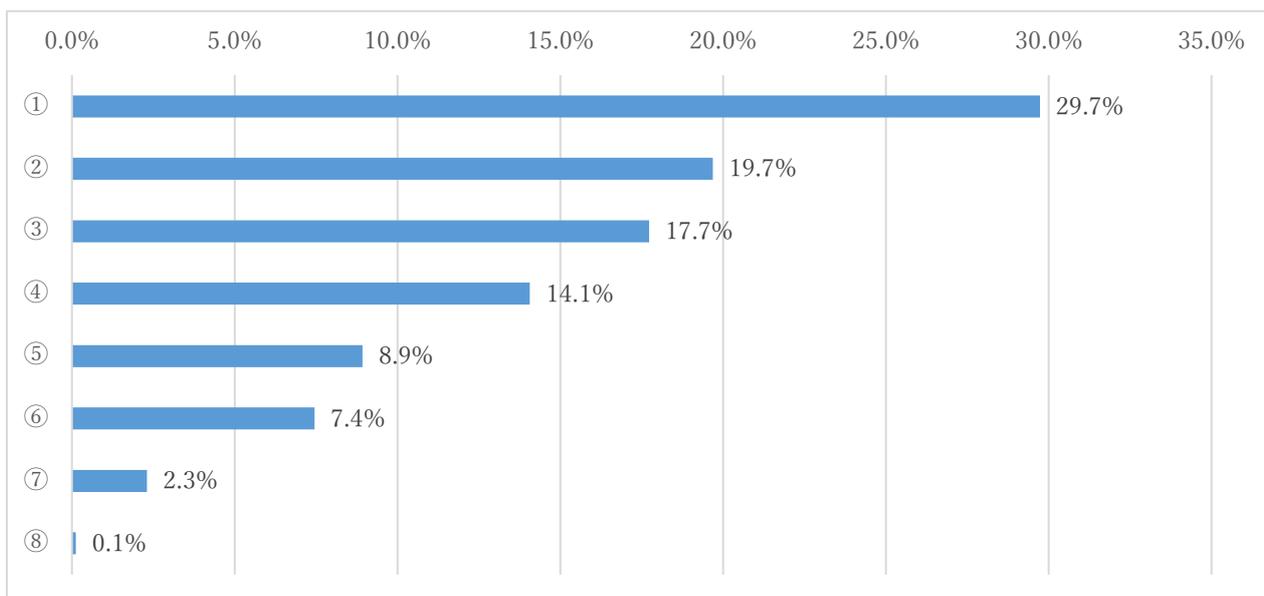
問1 あなたは今までに、認知症の人と接したことがありますか。 N=1,508



- ・今までに認知症の人と接したことがあるか聞いたところ、「ある」と答えた人の割合が69%、「ない」と答えた人の割合が31%となっている。
- ・年齢別に見ると、「ある」と答えた人の割合は、30~70歳代で、「ない」と答えた人の割合は10歳代で、それぞれ高くなっている。

## 問1-1 認知症の人と接する機会について

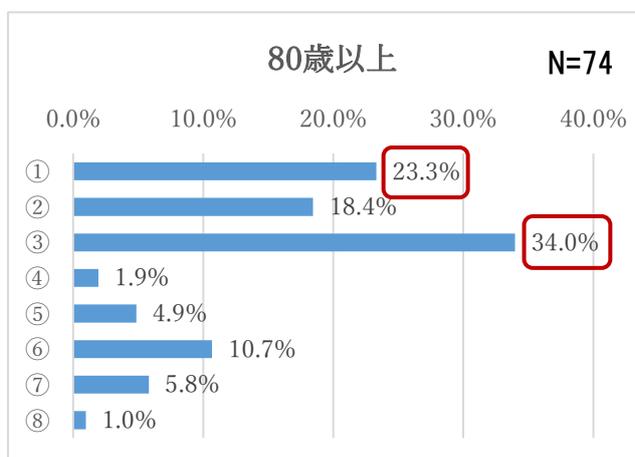
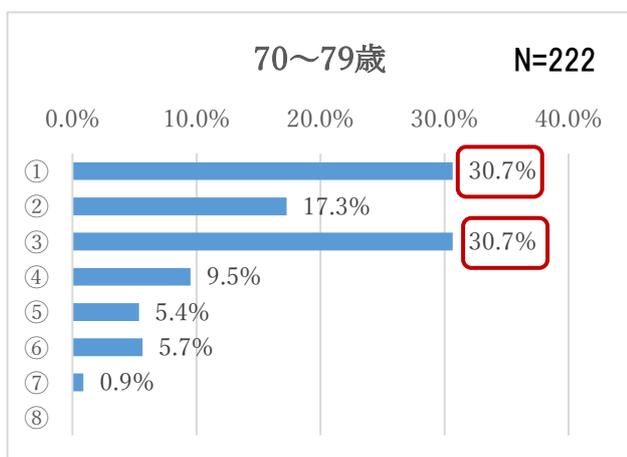
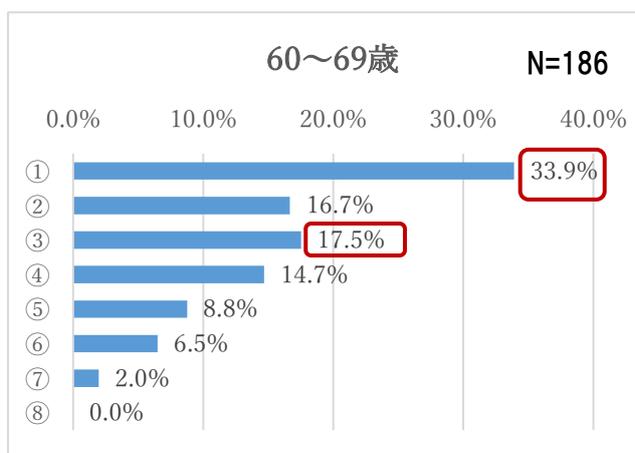
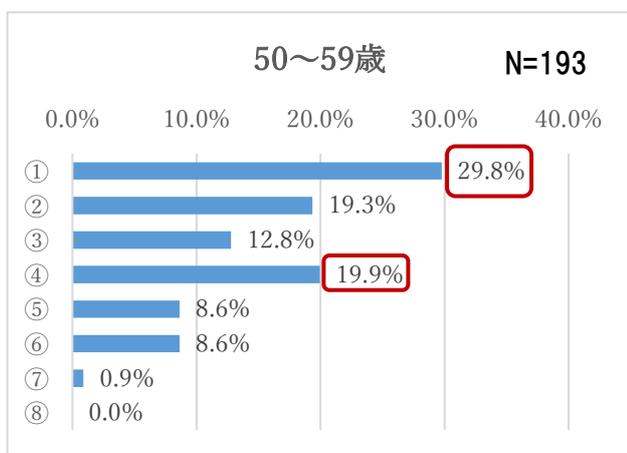
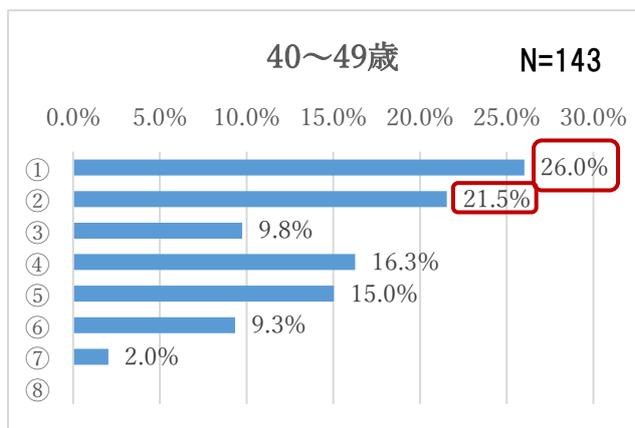
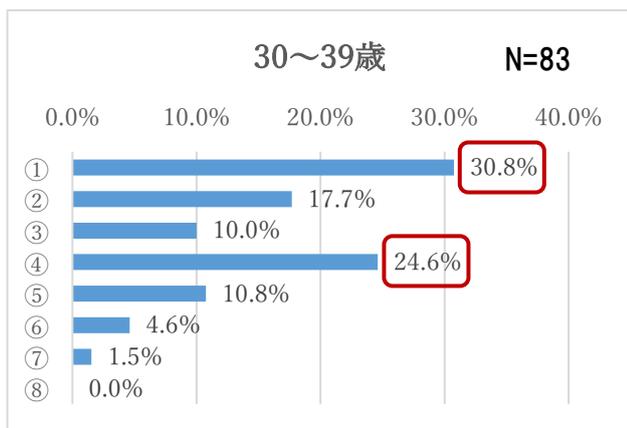
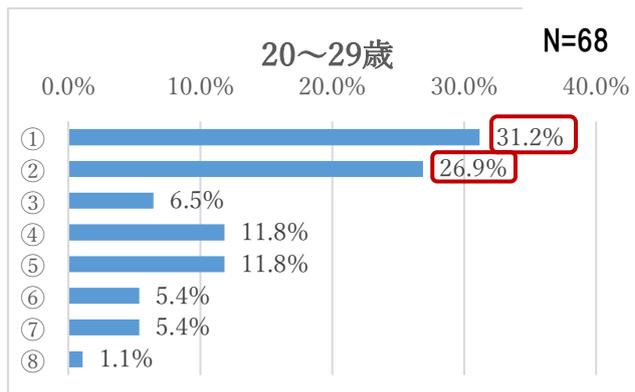
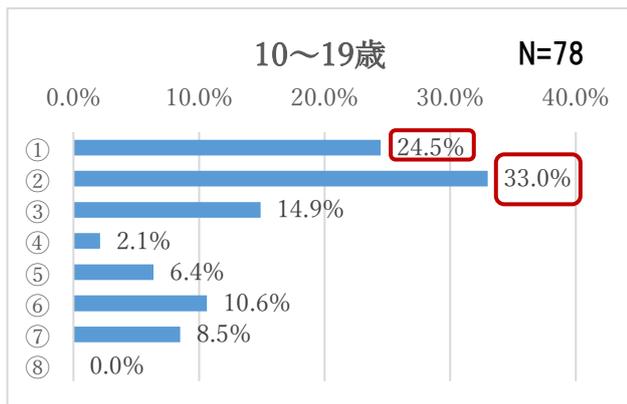
問1で、今まで認知症の人と接したことが「ある」と答えた人に、複数回答 N=1,047



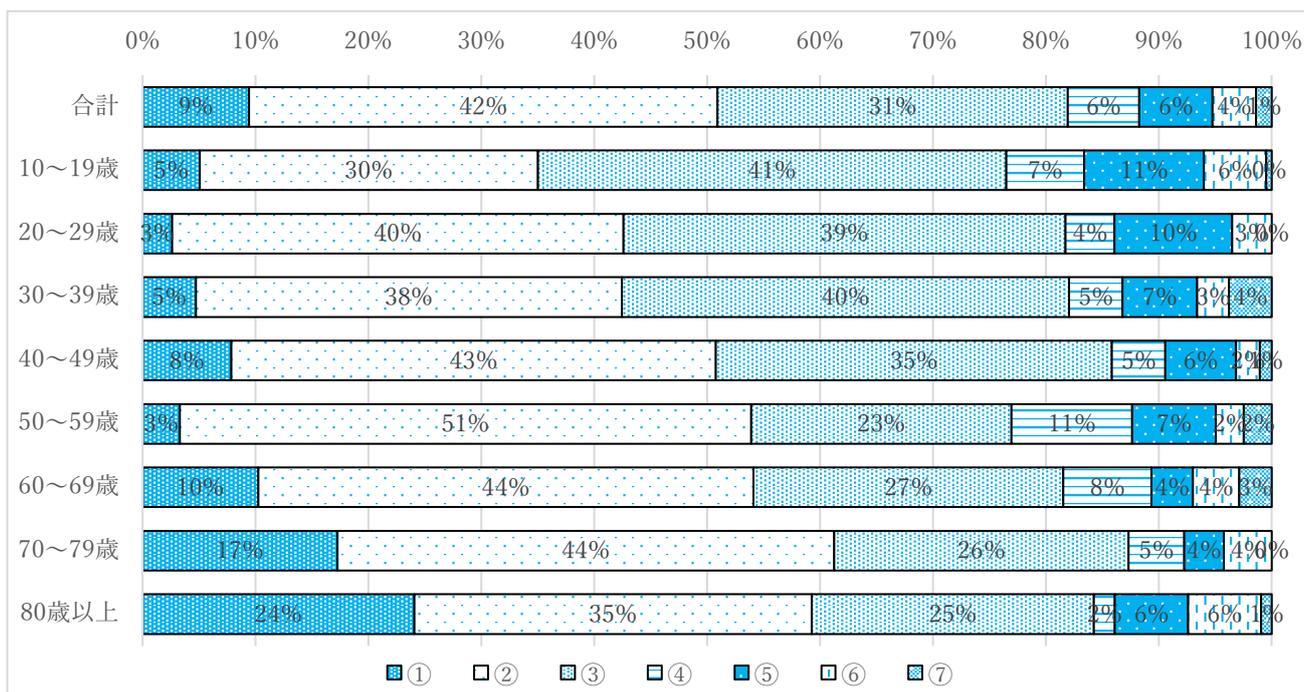
- ①家族の中に認知症の人がいる（いた）
- ②親戚の中に認知症の人がいる（いた）
- ③近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある
- ④医療・介護の現場で働いている（いた）ため、認知症の人と接したことがある
- ⑤医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある
- ⑥街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある
- ⑦その他
- ⑧わからない

・今までに認知症の人と接したことが「ある」と答えた人（1,047人）に対して、接した機会を聞いたところ、「家族の中に認知症の人がいる（いた）」と答えた人の割合が、29.7%と最も高く、以下、「親戚の中に認知症の人がいる（いた）」（19.7%）、「近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」（17.7%）、「医療・介護の現場で働いている（いた）ため、認知症の人と接したことがある」（14.1%）などの順となっている。

【年齢別】 認知症の人と接する機会 N=1,047



**問2 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。  
あなたが思う最も近いものを一つだけお答えください。 N=1,508**

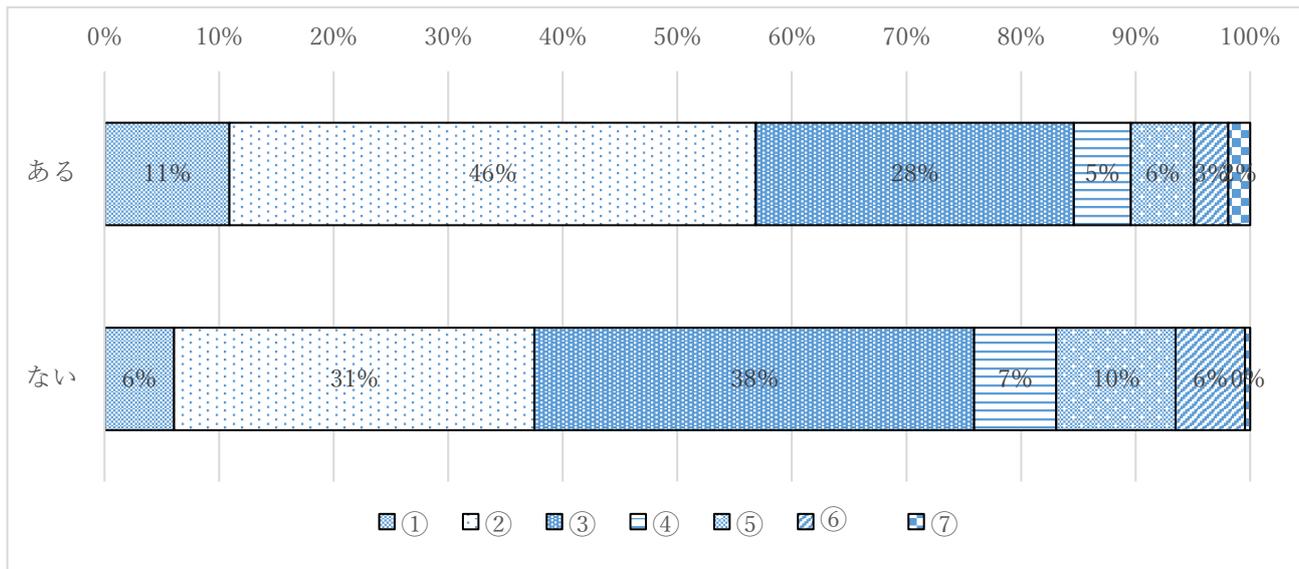


- ①認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる。
- ②認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける。
- ③認知症になると身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる。
- ④認知症になると、暴力、暴言など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる。
- ⑤認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう。
- ⑥わからない      ⑦その他

・認知症に対してどのようなイメージを持っているか聞いたところ、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる」と答えた人の割合が9%、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と答えた人の割合が42%、「認知症になると身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」と答えた人の割合が31%。「認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる」と答えた人の割合が6%、「認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう」と答えた人の割合が6%となっている。

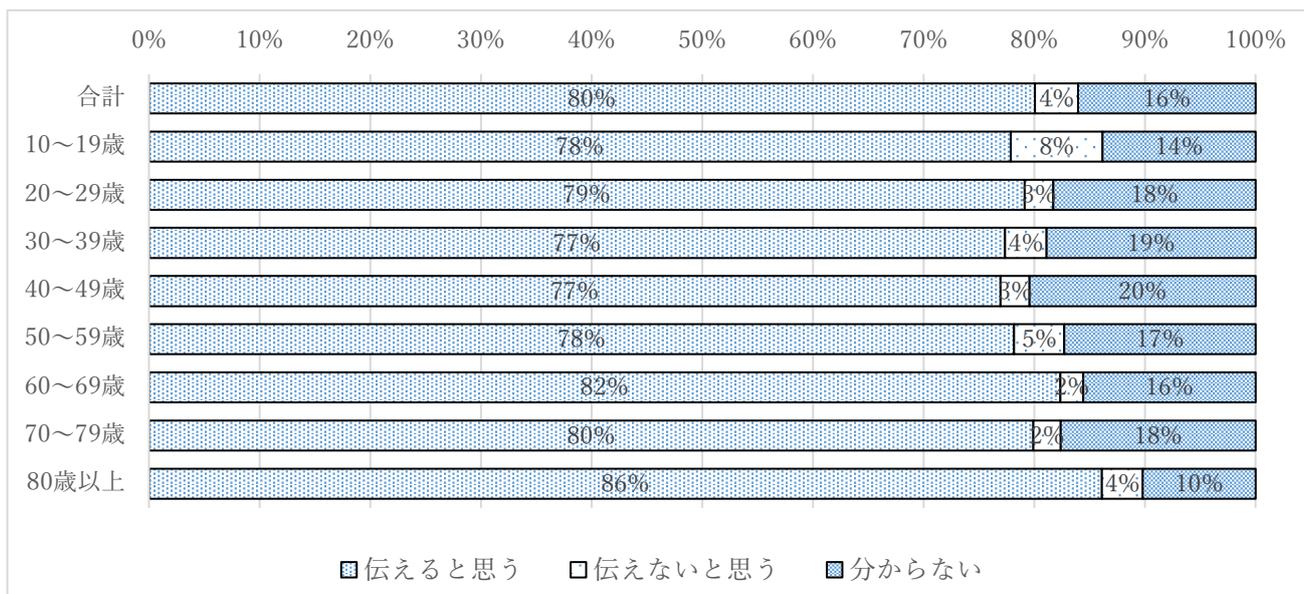
・年齢別に見ると、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と答えた人の割合は50歳代で、「認知症になると身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」と答えた人の割合は10～30歳代で高くなっている。「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる」と答えた人は80歳以上が最も高くなっている。

【認知症の人と接する（した）ことと、認知症のイメージについて】 N=1,508



・【問1】今までに認知症の人と接する（した）ことが「ある」と答えた人（1,047人）と「ない」と答えた人（461人）の【問2】認知症に対してのイメージについて比較すると、認知症の人と接する（した）ことが「ある」と答えた人は、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と答えた人の割合が高くなっている。認知症の人と接する（した）ことが「ない」と答えた人は、「認知症になると身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」と答えた人の割合が高くなっている。

**問3 あなたが認知症になったとき、周囲の誰かにそのことを伝えますか。 N=1,508**



・認知症になったとき、周囲の誰かにそのことを伝えるか聞いたところ、「伝えると思う」と答えた人の割合が80%、「伝えないと思う」と答えた人の割合が4%、「分からない」と答えた人の割合が16%となっている。年齢別に見ると、「伝えると思う」と答えた人の割合は80歳以上で高くなっている。

**問3-2 問3で「伝えないと思う」「分からない」と答えた理由を教えてください。**

**・「伝えないと思う」理由 N=57**

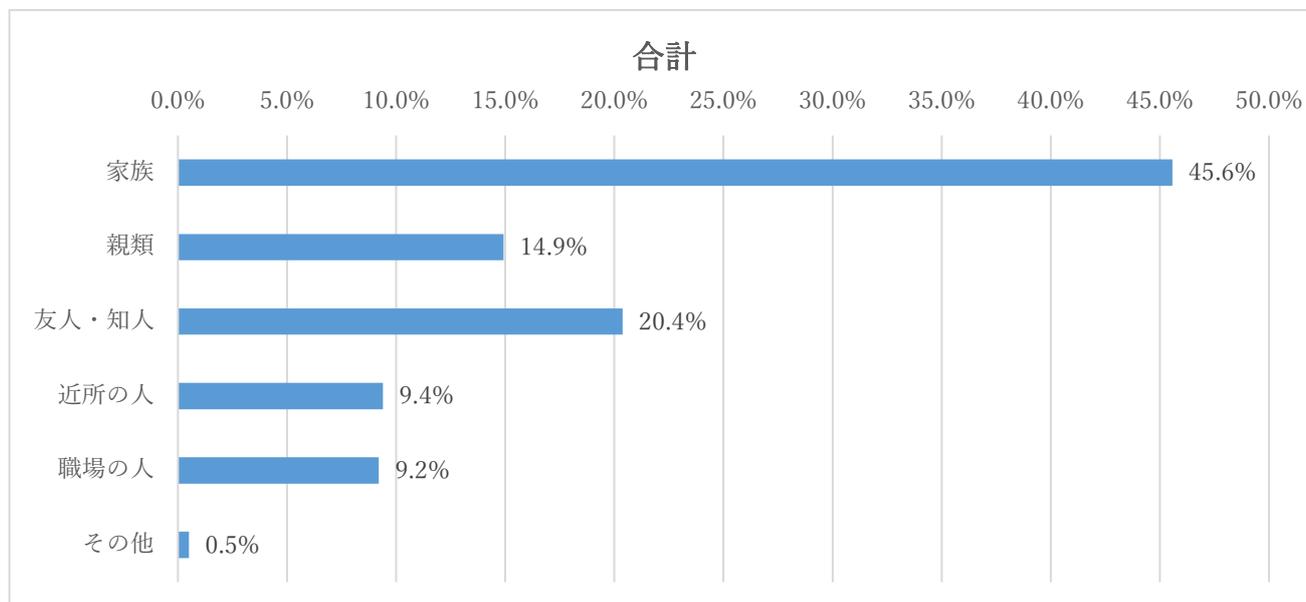
認知症になると、伝えることができないと思う。	17人
周囲に理解してもらえない、どのように思われるか不安。	7人
迷惑や心配をかけたくない。	6人
自分自身が認知症であることを認めたくない。	4人
恥ずかしい。	3人
周囲に知られたくない。	3人
その他（伝え方が分からない・詐欺が怖い・伝える人がいない・伝えても良いことがない等）	8人
未回答	9人

**・「分からない」理由 N=251**

認知症であることを自覚することが難しいと思う。	77人
想像ができない。なってみないと分からない。	51人
その時の自分自身の状態や生活状況によると思う。	19人
判断や伝えることができる状態なのか分からない。	12人
周囲に理解してもらえるか、接し方が変わってしまうか不安。	11人
その時に伝えたい人がいるのか分からない。	4人
認知症についての知識がない。	4人
伝えたい人にだけ伝えると思う。	3人
考えたくない。	3人
迷惑をかけたくない。	2人
その他（自分が認知症になると思っていない・恥ずかしい・認知症であることを受け止める自信がない・知られたくない反面、理解してほしい気持ちがある。）	16人
未回答	49人

### 問3-2 認知症であることを誰に伝えますか。 N=1,200

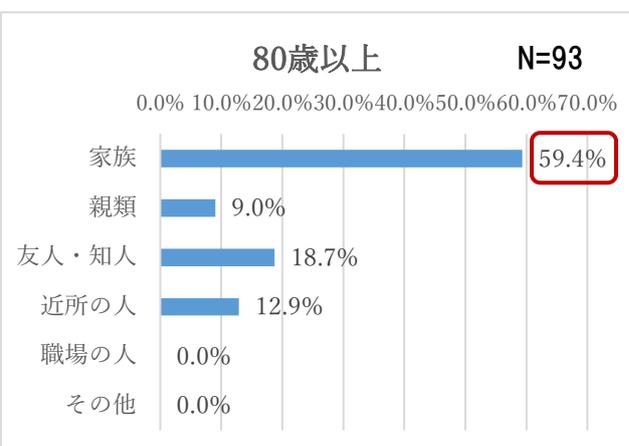
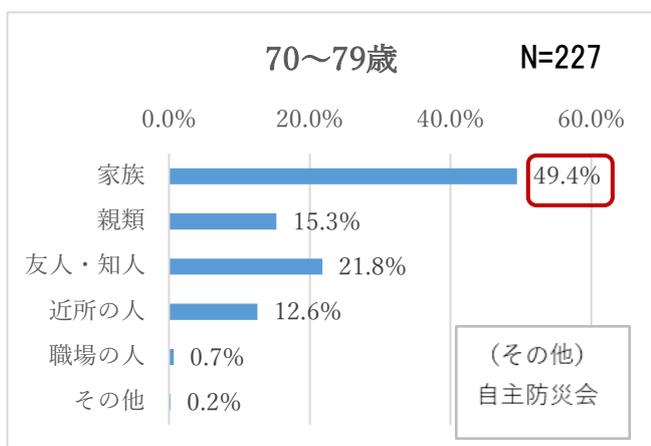
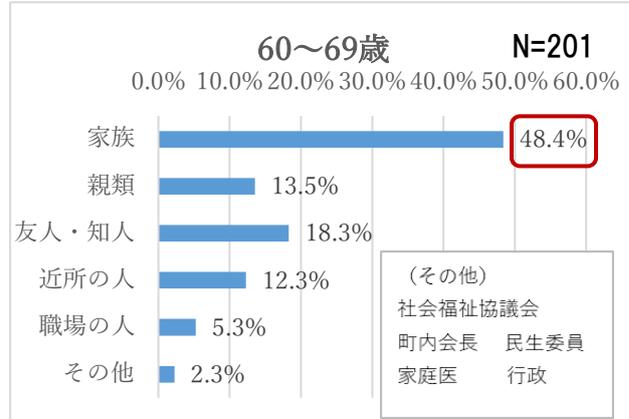
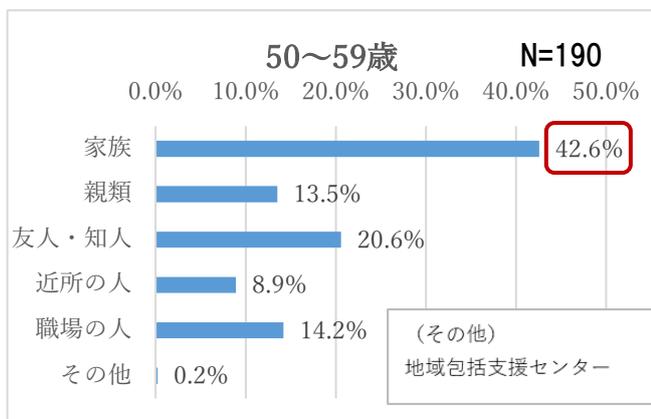
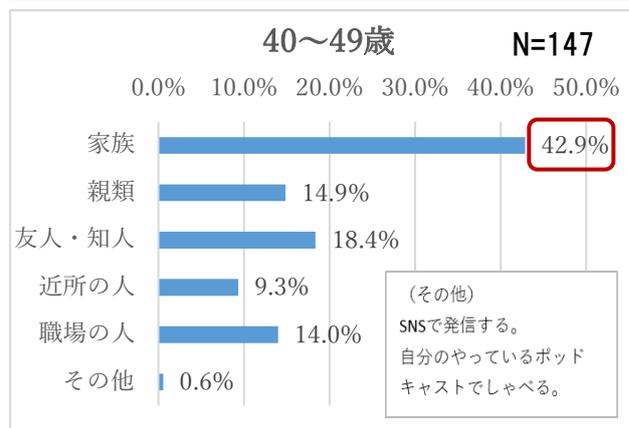
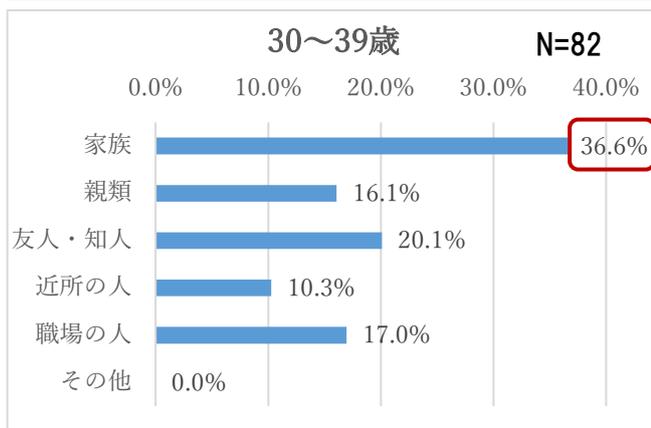
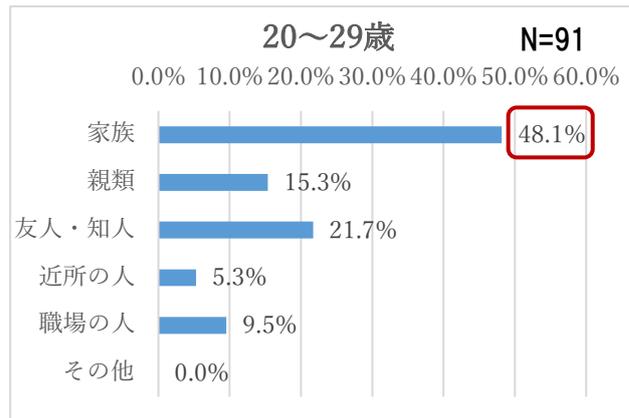
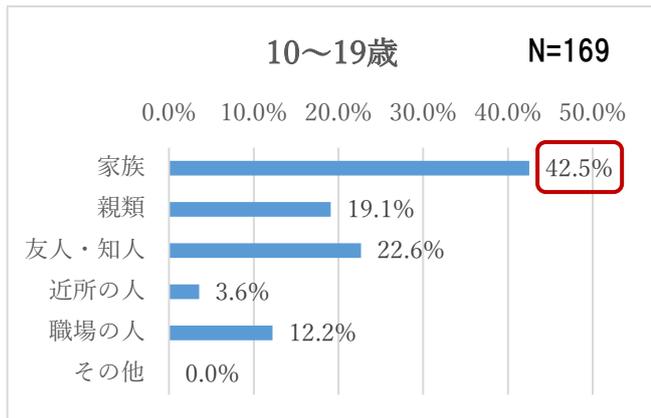
問3で認知症になったとき、周囲の誰かにそのことを「伝えると思う」と答えた人に複数回答



- ・認知症になったとき、周囲の誰かにそのことを「伝えると思う」と答えた人に、認知症であることを誰に伝えるか聞いたところ、「家族」と答えた人の割合が45.6%、「友人・知人」と答えた人の割合が、20.4%、「親類」と答えた人の割合が14.9%となっている。

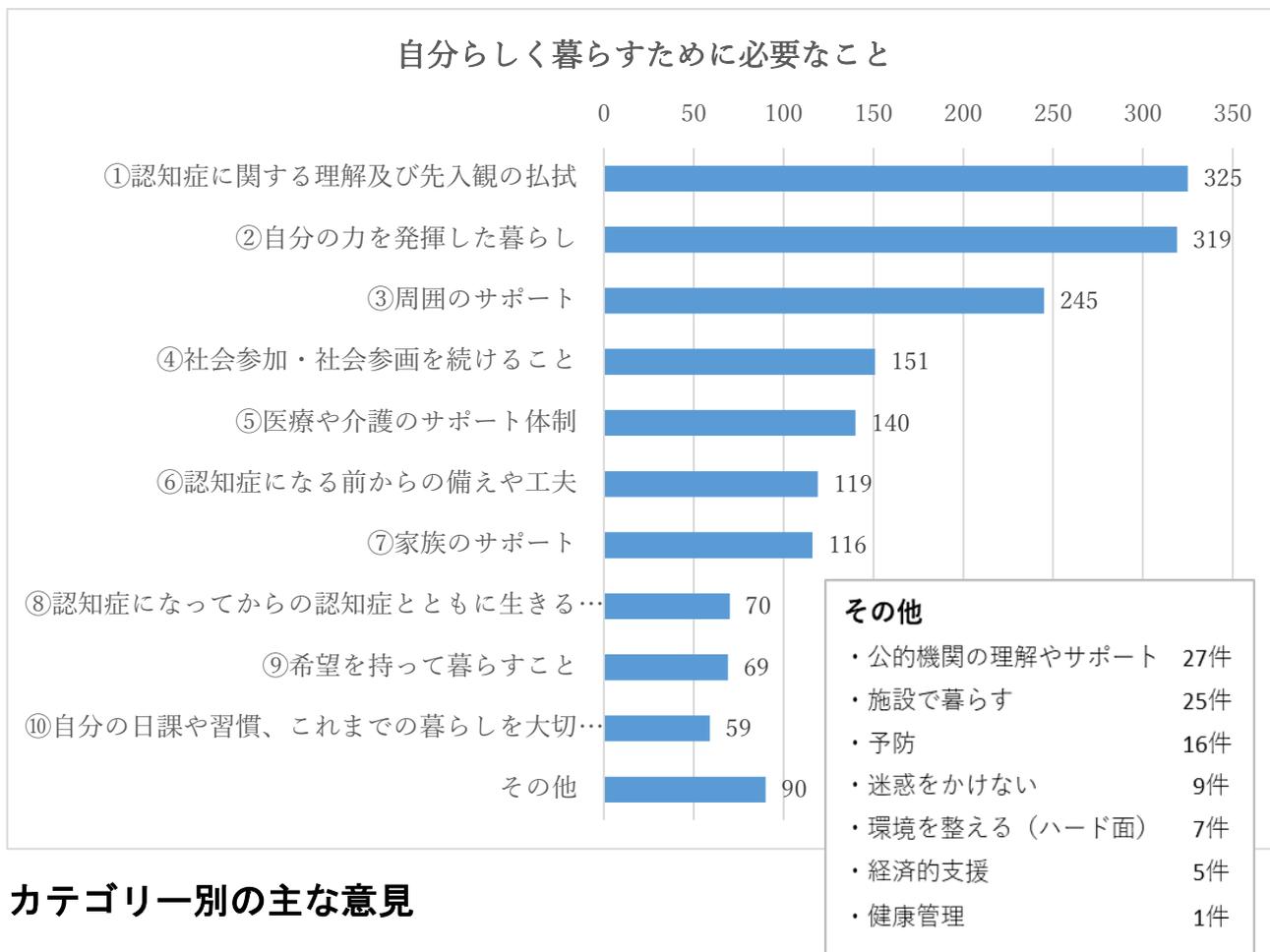
【年齢別】認知症であることを誰に伝えるか。

N=1, 200



## 問4 認知症になってからも、自分らしく暮らし続けるためにどのようなことが必要だと思いますか。(自由記述)

・1,508人中、1,259人から回答がありました。



### カテゴリー別の主な意見

#### ①認知症に関する理解及び先入観の払拭

- ・ 周りの理解が必要だと思う。認知症に対してあまりよくないイメージを持っている人が多い気がする。だからこそイメージを変えて理解を得る必要があると思う。
- ・ 小中高生に福祉を学ぶ機会（高齢者とのふれあい、福祉を学ぶ養成校訪問等）を作る。単発ではなく、小学生、中学生、高校生と学ぶ内容を段階的に積み上げていく。介護を担う人材不足にも効果があるのではないかなと思う。地域で自分らしく暮らすために、地域で育ってきた子どもたちが成長して、必要とする支援を担ってくれたら嬉しい。
- ・ 認知症以外にもさまざまな生きづらさを感じている人は多くいます。子を持つ親としては、認知症になってからも自分らしく暮らし続けられる社会に向けて、子どもの頃からの多様性を認め合える環境づくりが必要だと思います。
- ・ 認知症に対するマイナスイメージがなくなること。認知症もひとつの個性、特徴みたいなイメージになって、周りがどう接すればいいかわかっていると暮らしやすいと思いました。
- ・ 「私認知症になったんだ」と自分のことを言いやすい文化の醸成。「私認知症なんです」と自ら言う人が何人かでもいれば、そのような文化も育つかも说不定なと思いました。
- ・ 1人の人として尊重する、意識改革が必要だと思います。

#### ②自分の力を発揮した暮らし

- ・好きなこと、趣味は全力で取り組む。それはいつまで経っても変わらないものだと思う。

- ・自分でできることは、最後までやる。(この気持ちが大切だと思っています。)
- ・手伝ってもらってばかりにならない。
- ・周りに助けを求められる人になること。
- ・何をしたかや人の名前を忘れても自分のしたいこと、やり残したことを存分に楽しむのがいいと思う。
- ・どんな症状が出るかわからないけど、できることは自分でやっていきたいし、できないことは生活支援をしてくださる方などに頼ったりすること。
- ・毎日の自分の生活の中で、努力をしていく事。現在82歳の年で、人のせいにする事なく、自分のためを考えて用事をしています。
- ・認知症だから仕方がないのではなく、出来ることを諦めずにやるのが大事だとおもう。周りの人間も全てをやってあげるのではなく意見を尊重しながらサポートしていくべきだと思う。

### ③周囲のサポート

- ・周りからのサポートがあれば病状が進行していても不安になることが少なくなると思う。
- ・地域の人が定期的に訪問しサポートをする体制を整えること。(家族、親族だけの問題と捉えない)
- ・気にかけてくださる人、寄り添ってくれる人が欲しい。できれば、家族以外で。
- ・初期状態の時から周りにサポートしてもらおう。
- ・近所の方他とりまく全ての方々が、互助として関わること。家族の責任にするのではなく、みんなで支援する気持ちが共有できると良い。
- ・周囲(家族、職場、近所)の理解や協力。気軽に相談できる人がいること。

### ④社会参加・社会参画を続けること

- ・社会との繋がりを持ち続けながら、生活をする必要があると思う。
- ・社会との繋がりがなくならないように仕事を続ける必要があると思います。
- ・家に閉じこもらず、近所で話せる人を増やす。
- ・自分にもできると思うことを積極的に行って、少しでも社会に貢献していく必要があると思います。
- ・人との繋がりを大切にしたい。笑顔を絶やしたくない。
- ・たくさんの人間関係を築いておくことが大切と思う。

### ⑤医療や介護のサポート体制

- ・相談できる窓口と寄り添ってくれる支援者がいる環境。
- ・症状が進行せず変わらず生活できればよいが、進行をおさえたり進行した場合の対処法など、専門家の意見や助言が必要だと思います。
- ・身の回りのことができたり、買い物などの外出が安全にできるサポートをしてもらう人が必要。一人暮らしの場合には、生活に不安がなく、安全に過ごせる場所が必要。
- ・家族と暮らしたい人もいるかもしれないが、自分は認知症でも受け入れてもらえる介護施設で過ごしたい。
- ・医師の診察を毎月しっかり受けディサービスを利用して認知症が進まない様に努力したい。
- ・自分の住み慣れた家でヘルパーを使い、死ぬまで自宅にいたい。

### ⑥認知症になる前からの備えや工夫

- ・なる前からなった後でも困らないような生活習慣(GPS付き携帯を常に持ち歩く等)をつけておいたり、なった後はどうするかを家族と相談しておいたり対策を立てておく。

- ・ 認知症の人と接してみる。
- ・ 忘れっぽい人間なので、これからもカレンダーに必要な事を記入して、自分の欠点をカバーしていきたい。
- ・ 自分が認知症になった時にどのように過ごしたいか今から考えそれを周りに伝えたり、ノートに書いて残すようにしておく(エンディングノートみたいに)
- ・ 介護が必要になってからでは遅いので、先を見据えて、少しずつリフォームもしています。
- ・ ヘルプカードを活用したいと思います。
- ・ 自分は何が好きなのか等忘れてしまわないようにメモ等することで介護してくれる人にも伝わる事ができる。

#### ⑦家族のサポート

- ・ 自分の力だけでなく家族の力を借りる。
- ・ 配偶者の援助が必要。
- ・ サポートする家族にも自分の人生があり、それを楽しめる状況でないと、認知症の人を支え続ける事が難しい。
- ・ 本人だけではなく、支える家族についても、支援制度のこと、経済的、心理面におけるサポートが欲しい。
- ・ 家族がいるならば家族の仕事と介護が出来る両立を行政が支える制度が必要。

#### ⑧認知症になってからの認知症とともに生きる意識

- ・ 認知症になったなら 私は認知症になったと 皆さんに伝えたいと思っています。
- ・ 自分の症状と今後の症状の進行について見通しをもつこと。認知症と一緒に行く心構え。
- ・ 認知症になるのはつらいけどそれと向き合い生きていくことが大事だと思いました。

#### ⑨希望を持って暮らすこと

- ・ 忘れることを恐れずにこれからの生活を楽しみに生きる。
- ・ なってしまった際、「もう自分は何もできない」「人に迷惑をかけてしまう」等マイナスな面だけを考えるのではなく、周りの理解や協力を得ながらできることをしていこうという前向きな気持ちが必要。
- ・ 尊厳と希望を持って認知症と共に生きていきたい。

#### ⑩日課や習慣、これまでの暮らしを大切にす。

- ・ 趣味を続けたり友達や家族と今までどおり過ごすこと。
- ・ 趣味を続けることや住んでいる環境を大きく変えないこと。
- ・ 日々、家事や散歩、コミュニケーションの日課を大切にしたい。
- ・ 工夫をして普段どおりに生活をする事ができるように努力することが必要だと思う。